第２回産科医療研究会　結果概要

〇日　時：令和６年３月４日（月）17：00～18：30

〇場　所：兵庫県庁２号館２階参与員室

〇出席者：別紙のとおり

〇議　事：県内産科医療機関および市町へのアンケート結果および
産科医療体制に課題を抱える県内市町との意見交換会の結果

（１）事務局からの説明

（２）意見交換

〇主な意見

- 産科医だけではなく、新生児科医の実態調査が必要。
- ハイリスク分娩に対応した場合や当直手当、夜間休日手当などを一律に上げるなどを実施しないと、医師のモチベーションにつながらない。
- 神戸・阪神間でも医師が不足している状況であり、現状の産科医療体制を維持するのも限界があることを市民は認識していないのではないか。
- 集約化し、お産の安全性を高めないといけないと医療機関側が思っている一方で、市町側は、地域でお産ができるように産科医師数・施設数を維持しようと思っており、医療機関側と市町側とで、認識の方向性に違いが生じている。
- 産科のオンコール呼び出しがある限り、当直でなくても小児科医は病院から呼び出される。この負担が大きく、産科がない医療機関の方が働きやすいという小児科の意見もある。
- 集約化に伴い、産後ケアもあわせて考えなければいけない。出産だけではなく、総合的な観点から母子支援を考えていただきたい。
- お母さんが安心して育児できる環境づくりが必要であり、出産から産後まで切れ目のない支援が求められている。
- 遠方の医療機関に行く若い医師が少ないので、その地域に行きたくなるようなインセンティブやサポートにより、勤務する医師が報われるような環境づくりが必要ではないか。
- 集約化するに伴って、遠方からの患者やその家族への交通費や宿泊費の支援が課題となるのではないか。
- 集約化はやむを得ないが、少子化を解消して、持続可能な地域づくりをしていくためには、やはり安心してお産ができる場所を設けていくことが必要ではないか。
- 医療機関の統廃合を進めることで、１医療機関の医師数を増やし、働きやすい職場を整備し、若い医師をリクルートするという体制を作っていく必要がある。また、学生に対して、産科医・新生児科医の魅力を宣伝する必要がある。
- 病院の体制として、若い医師をサポートする体制を構築することが重要である。
- 兵庫県内で安心・安全なお産を継続するためには、集約化しかない。医療機関へのアクセスや住民への理解を行政側が中心となって実施していく必要があるのではないか。